

「道薬誌」本号(5月号)『話題のクスリ』についての実践記録

<p>テーマ</p>	<p>経口リン酸製剤ホスリボン® 配合顆粒について</p>	<p>学習目標：この薬の特性と適正使用について学ぶ</p>
<p><b>開発の経緯</b></p> <p>国内では低リン血症を適応とする経口リン酸製剤が存在していなかったため、未承認薬剤の使用や適応外使用(ビジクリア®配合錠)が行われていた。この薬は希少疾病用医薬品の指定を受け、全症例、使用実績調査対象</p> <p><b>用法・用量</b></p> <p>血清リン濃度は服用1～2時間後に最高に達し4時間後には投与前値に戻る。頻回分割投与が望ましく、服用回数の上限は設けられていない。</p> <p>リンとして1日あたり20～40mg/kgを目安に、上限は3,000mg</p> <p>塩類下剤と同一成分であるため胃腸障害を引き起こす可能性。胃腸障害が出現した場合は、1回あたりの投与量を減量し、投与回数を増やすことを考慮</p> <p>リンを多く含む食品の食事量や食事内容を考慮し投与量を調節</p>		<p><b>使用上の注意</b></p> <p>腎機能障害・副甲状腺機能亢進症・ナトリウム摂取制限を要する患者には慎重投与(1包中にナトリウム94mg含有)</p> <p>腎機能障害と腎臓の石灰化発現に注意</p> <p>アルミニウム含有製剤との併用で効果減弱</p> <p><b>参考</b></p> <p>道薬誌 Vol.31 No.5 添付文書・インタビューフォーム</p> <p><b>【学習内容で実践活用ができそうな例・実践活用できた内容】</b></p> <p>薬剤の特性を理解した患者説明</p> <p><b>【学習目標達成できなかった項目・今後の学習が必要な項目】</b></p> <p>薬剤の味・服薬のしやすさについて確認</p> <p>低リン血症性くる病について学習 低リン血症性くる病ナビ<a href="http://www.teirin-kurubyo.jp/">http://www.teirin-kurubyo.jp/</a></p>

添削コメント

ホスリボン配合顆粒について要領よくポイントを絞ってまとめた優れたポートフォリオになっていると思います。今後の学習目標も患者さんの視点に立って、また、病態の理解を高めるための目標が立てられており、学習の発展も期待できます。食事内容にも注意するべきであるとの記載がされていますが、リンを含む食事の具体例などを記録しておく、服薬指導の質をさらに上げてくれると思われま。薬剤師職能への期待が高まるなか、薬剤師が果たすべき責任はますます大きくなっています。JPALSは各薬剤師の目標・目的のレベルに対応し、いつでも学習状況を確認し、復習できる強力なツールになります。少しでも良いので、この事例のように、記録を積み重ねていけば、薬剤師職能はますます向上すると期待されます。

北海道大学大学院 薬学研究院

臨床薬学教育研究センター 准教授 柴山 良彦

## 国試問題を解いてポートフォリオを書いてみよう！

### ◆ JPALS 国家試験問題 ◆

問1 セベラマー塩酸塩錠の用法として適切なのはどれか。1つ選べ。

- 1 朝昼夕食前 2 朝昼夕食直前 3 朝昼夕食直後 4 朝昼夕食後 5 朝昼夕食2時間後

問2 図は吸入粉末剤(ドライパウダー)吸入の様子を示したものである。吸入方法として、最も適切なものはどれか。1つ選べ。



### ▶ 解 説 ◀

第98回薬剤師国家試験 必須問題(実務)より

問1 解答：2

通常、成人には、セベラマー塩酸塩として1回1～2gを1日3回食直前に経口投与する。セベラマー塩酸塩は、消化管内で食物中のリン酸イオンと結合し、糞中排泄を促進させ、消化管からのリン吸収を抑制する。そのため、適切に効果を発現できるよう、食物とよく混じり合う食直前服用となっている。

第98回薬剤師国家試験 実践問題(実務)より

問2 解答：3

吸入粉末剤(ドライパウダー)の吸入は、吸入器を水平に持ち、マウスピース(吸入口)を軽くくわえ、口から速やかに深く息を吸い込む。

#### <吸入粉末剤(ドライパウダー)使用上の注意点>

- ①吸入前：マウスピース(吸入口)に息を吹き込まないように注意し、軽く息を吐く。
- ②吸入時：吸入器を水平に持ち、マウスピース(吸入口)を軽くくわえ、口から速く深く息を吸い込む。
- ③吸入後：吸入器を口から離し、そのまま軽く息を止める。(吸入ステロイド薬の場合、口腔内カンジダ症や嗄声の予防のため、吸入後必ず、うがいを実施するよう指導する。)